

Press Release

2026年7月3日

国立大学法人 筑波技術大学

一般社団法人 食道がんサバイバースシェアリングス

食道がん患者支援団体が筑波技術大学と共同で、聴覚障害のある大学生を 対象とした「がん教育」を実施

～がんサバイバーと専門家が伝える“自分ごと”としてのがんとの向き合い方～

一般社団法人 食道がんサバイバースシェアリングス（代表理事：高木健二郎）は、国立大学法人筑波技術大学 FD・SD 企画室および産業情報学科有志との共同企画として、2026年7月21日 火曜日に、聴覚障害のある大学生および本学教職員を対象とした「がん教育プログラム」を実施いたします。

日本人の2人に1人が生涯のうちにがんに罹患すると言われる中、若い世代から正しい知識を身につけ、予防や検診の重要性を理解することが求められています。一方で、聴覚障害のある方々は、医療や健康に関する情報が音声中心で発信されることが多く、必要な情報にアクセスしづらいという課題があります。

本企画では、国立がん研究センターの専門家による講義と、食道がん経験者による体験講話を通じて、がんを「特別な病気」ではなく「誰にでも起こり得る身近な健康課題」として捉え、自らの健康や将来について考える機会を提供します。

また、本学教職員向けにも、がんの備えについて講義を行い、がんへの理解を深め、誰もが安心して学び・働ける環境づくりを目指します。

■開催概要

<名称>

- 聴覚障害のある大学生に向けたがん教育の実施
- 聴覚障害のある教職員も含めた大学教職員のがんへの備えについて

<日時>

2026年7月21日 火曜日

- ・ 第1部（学生向け）14:40～16:00
- ・ 第2部（教職員向け）16:10～17:20

<対象>

筑波技術大学の学生および教職員

※上記以外の方の参加はできません。

<会場>

筑波技術大学（オンライン併用予定）

<共同企画>

一般社団法人 食道がんサバイバースシェアリングス
筑波技術大学 FD・SD 企画室・産業情報学科有志

<情報保障>

手話通訳を配置

■プログラム

<第1部 学生向け／14:40～16:00>

- ① がんの基礎知識
「がんについて、知っておいてほしいこと」
講師：若尾文彦／国立がん研究センターがん対策情報センター本部副本部長
- ② 食道がんサバイバーによる体験講話
「未来の自分が後悔しないために」
講師：高木健二郎／一般社団法人 食道がんサバイバーズシェアリングス 代表理事
- ③ 学生との対話・質疑応答

<第2部 教職員向け／16:10～17:20>

- ① 「がん治療と仕事の両立」
講師：野北まどか／一般社団法人がんと働く応援団 代表理事
- ② 「がん治療と生活を支えるお金の話」
講師：芝原有可子／一般社団法人がんと働く応援団 ファイナンシャルプランナー
- ③ 「がんになる前に知っておいてほしいこと」
講師：森谷 直也／筑波技術大学大学戦略課人事係 係長
講師：林 範子／筑波技術大学財務課出納係 主任

■本企画の特徴

1. 聴覚障害のある学生に特化したがん教育
手話通訳による情報保障のもと、医療情報へのアクセス格差の解消を目指します。
2. 専門家とサバイバーによる協働
がん研究の専門家による正確な知識と、実際にがんを経験したサバイバーの体験を組み合わせることで、知識だけでなく「生きた学び」を提供します。
3. 若年層への予防啓発
がん予防や検診の重要性を伝え、将来の健康行動につながるきっかけづくりを目指します。
4. 大学全体で「がんと共に生きる社会」を考える
教職員向けには、がん治療と仕事の両立や支援制度について学ぶプログラムを実施します。がんへの理解を深め、誰もが安心して学び・働ける環境づくりを目指します。

■共同企画者コメント

▼一般社団法人 食道がんサバイバーズシェアリングス
代表理事 高木 健二郎

「がん教育は、「これからの人生を歩む若い世代のため」にも大切な学びだと考えています。また、誰もが必要な医療情報に触れ、自分の健康について考える機会が広がってほしいと願っています。

患者団体にできることは決して多くありません。しかし、がんを経験した私たちだからこそ伝えられることがあります。患者を支えるだけでなく、自らの経験を社会に還元し、がん教育の機会づくりに取り組んでいくことも、患者団体の大切な役割の一つだと考えています。

今回の取り組みが、一人ひとりが自分や大切な人の健康について考えるきっかけとなり、さまざまなコミュニケーション方法に配慮した、誰もが学びやすいがん教育の広がりにつながることを願っています。」

▼国立大学法人 筑波技術大学 産業技術学部 産業情報学科

教授 山脇博紀

「私自身もがんを経験したサバイバーです。治療を通じて、正しい知識の大切さと、先輩サバイバーの体験談に支えられることの大きさを実感しました。がんは誰にでも起こり得る身近な病気です。学生の皆さんには、自分自身や家族、友人に関わる問題として理解し、健康について考えるきっかけにしてほしいと思います。」

▼国立大学法人 筑波技術大学 産業技術学部 産業情報学科

講師 堀池 瞬

「私は大学生のときに父をがんで亡くしました。その経験から、がん教育は自分自身のためだけでなく、家族や身近な人を支えるためにも大切な学びと考えています。この機会を通して、学生の皆さんが、もし大切な人ががんと向き合うことになったときにも、落ち着いて対応できる知識と心構えを育むきっかけになればと思います。」

■団体概要

・一般社団法人 食道がんサバイバーズシェアリングス（食がんリングス）

[食がんリングスホームページ](#)

食道がん患者・家族の交流支援、治療体験の共有、啓発活動を行う患者団体。患者・家族・医療者・社会をつなぐ架け橋として、講演活動や交流会、情報発信などに取り組んでいる。

・国立大学法人 筑波技術大学

[筑波技術大学ホームページ](#)

茨城県つくば市にある、日本でただ一つのきこえない・きこえにくい人、みえない・みえにくい人のための国立大学。きこえない・きこえにくい学生が学ぶ産業技術学部では、手話・文字等の情報保障と少人数教育を通じて学修を支え、専門知識・技術を備えた人材を育成しています。

◎取材に関するお問い合わせ先

一般社団法人 食道がんサバイバーズシェアリングス

代表理事 高木 健二郎、関根牧子

info@shokuganrings.com

◎筑波技術大学に関するお問い合わせ先

筑波技術大学広報室

kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp